
ハロウィンのともだち

あららぎ慎駒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハロウインのともだち

【Nコード】

N9432C

【作者名】

あららぎ慎駒

【あらすじ】

ハロウインがちかついたある日森のなかにすむオバケはさんぽにでかけました。はたけにいったオバケはなにかにあたまをぶつけてしまいました。するとオバケのあたまはカボチャになってしまいました。そんなオバケとカボチャのおはなし。

ふかい ふかい 森のおくに ひとりのオバケがすんでいました。
オバケは もうすぐやってくる 一年にいちどのおまつり ハロ
ウィンが とても とても たのしみでした。

ある日 オバケは 森をでて さんぽにいきました。

足がないオバケは すいすい 空をとんでいきます。

森をぬけて お花ばたけをみて 大きな川をわたって すると
ひろい ひろい はたけがありました。

はたけには はじめてみる やさいが たくさんはえていました。
オバケは ドキドキしながら やさいを じつとみつめたり さ
わったりしました。

すると オバケは なにかにぶつかってしまいました。

「イタイ イタイ」

オバケは あたまを おさえました。

「あれ？ あたまが大きくなってるぞ」

すると あたまから こえがきこえます。

「あれ？　なんだか　せがたかくなつたぞ」

オバケは　かんがえました。

川にもどつて　水にうつつたじぶんのかおを　のぞきこみました。

「あたまが　カボチャになつてゐるぞ」

オバケはびっくりしました。

カボチャは　よろこんでいました。

「せがたかくなつて　いろんなものがみえるようになった。　空を
とべるようになって　いろんなところにいけるようになった」

オバケも　たのしくなりました。

「ふたりなら　なんでもできるかもしれぬ」

オバケとカボチャは　いつしよにくらしました。

ハロウィンの日　オバケとカボチャは　森にいきました。

オバケは　くらいところがすきです。

森には　大きな　大きな木が　たくさんはえていています。

オバケは　カボチャに　だいすきな森をあんないしてあげました。

「まじょさんも こんな森にすんでいるのかな？」

オバケはいいました。

ずっと ずっと とおくの森にすんでいて ハロウィンの日だけ
みんなの前にやってくるまじょ。

オバケは まじょにあいたくて しかたがないのです。

「はやく まじょさんにあいたいなあ。」

オバケは たのしそうにいます。

「たのしみだ。はやく あいたいなあ。」

カボチャもいいました。

すると 森の上を なにかがとんでいきました。

「まじょさんだ！」

ふたりは こえをそろえて いいました。

オバケは おいかけようと 空をとびます。

でも あたまのカボチャがおもたくて なかなか おいつけませ
ん。

「カボチャがおもたくて とべないよ！」

オバケは いいました。

すると オバケのあたまから カボチャがとれて じめんにおちてしまいました。

かるくなつたオバケは なにもいわずに とんでいつてしましました。

カボチャは くらい森でひとりぼっちに なつてしまいました。

オバケは いっしょうけんめい まじよを おいかけました。

どれだけ がんばっても オバケは まじよにおいつくことができません。

「まじよさんまつて！」

オバケは 大きなこえで よびました。

すると まじよはとまつて いいました。

「あんたの 大切なものはなんだい？」

「大切なもの？」

「それといっしょに 山のちょうじょうへ おゆき」

そついうと まじよは また とんでいきました。

オバケは 大切なものはなにか かんがえました。

ふと カボチャのことを おもいだしました。

すると こんどは かなしくなりました。

いそいで カボチャをさがしに 森のなかにもどりました。

カボチャは じつとしていました。

オバケは カボチャをみつけると なんどもあたまをぶつけました。

「イタイよ いたいよ」

カボチャはいいました。

なんと あたまをぶつけても いっしょになることはありません。

あきらめたオバケは カボチャを もちあげていいました。

「山のちようじょうへ いこう」

オバケは いっしょうけんめい とびました。

山のちようじょうにつくと もう 夜になっていました。

空には たくさんのほしが みえました。

オバケは カボチャをあたまの上まで もちあげました。

すると 空いっぱいのがしが ながれぼしにかわりました。

「大切なものは ともだちだ」

オバケは いいました。

「ずっと いっしょに いよう」

カボチャは いいました。

ふたりは ながれぼしがきえるまで ずっと 空をながめていました。

（後書き）

読んでいただき、ありがとうございました。ストーリーは、今日見た夢からなっています。どうして夢の主人公がオバケだったんでしょう…。絵本のようなイメージで書いてみたのですが、いかかでしたでしょうか？感想など頂けるとうれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9432c/>

ハロウィンのともだち

2010年10月10日01時28分発行